

防災対策

- Q** 防災備蓄食の対応について伺います。
- A** 公立の小、中学校の防災倉庫と14カ所の防災備蓄倉庫に保存期間5年のアルファ米約6万食、保存期間25年のクラッカー約8万5千食、また、乳児用粉ミルクを約7千食分備蓄しています。各家庭においても最低3日間、できれば7日間の備蓄をするよう啓発しています。
- Q** 期限が近い防災備蓄食品を利用しリメイクするなど、更なる防災啓発に対する市の対応について伺います。
- A** 防災イベントで備蓄食のクラッカーを使用した料理を配布し啓発と共に、本市と包括協定を締結している和洋女子大学では、学生を対象とした「防災・減災リーダー」の防災講座を行っており、その中で備蓄食品を使用した創作料理やレシピ集を作成しています。
- 今後、市民にもわかりやすい事例を提供し啓発して頂きたい事を要望しました。
- Q** 災害時乳児用液体ミルクの有用性に対する市の認識及び今後の取り組みについて伺います。
- A** 液体ミルクは常温保存ができ、すぐに飲ませることができるため、災害時に大変有効と考えています。8月に厚生労働省が規格基準を定めたことから、国内での販売及び製造が可能になります、液体ミルク導入に向け情報収集を行って参ります。まずは、粉ミルクと共に、公立保育園の備蓄物資などとして進め順次、拡大したいと考えます。

不妊治療及び不育症治療について

- Q** 不妊治療の現状と支援策を伺います。
- A** 不妊のカップルは10組に1組と言われている、特定不妊治療である「対外受精」と「顕微授精」は保険適用外となり高額な治療費がかかります。そこで、厚生労働省は保健所を窓口に「特定不妊治療費助成事業」を行っています。所得、年齢などの制限を設け、治療の状況に応じ、初回治療が30万円、2回目以降は1回15万円を上限として助成しています。
- Q** 県内28市町村が市独自の不妊治療に対する支援を行っています。本市においても支援導入ができないか伺います。
- A** 近隣市として浦安市、松戸市共に、国が行っている助成に対し上乗せる形で行っています。また、男性不育症に対しても助成しています。今後、他市の状況を調査し、検討していきます。
- また、市長からも、「現在職員と共にミーティングし方向性を考えています」との前向きな答弁を頂きました。

要望

不妊症、不育症（2回以上の流産、死産を繰り返すこと、年間3万人が発生している、研究班は治療により80%以上の方が出産にたどり着ける報告があります）に対する相談窓口の更なる充実を要望しました。



©KOMEITO